令和五年九月

漢詩鑑賞

**已涼**

**碧闌干外繡簾垂　　　れ**

**猩色屛風畫折枝　　の　をく**

**八尺龍鬚方錦褥　　の　の**

**已涼天氣未寒時　　の　の**

【通釈】起句　青い欄干の外には美しい刺繍飾りのが垂れ下がり、

　　　　承句　のには一枝の花の絵。

　　　　転句　(屏風のかげには)八尺四角ののひげの敷きものに

　　　　　　　りの褥。

　　　　結句　涼しく未だ寒くもない好時節のひととき。

【語釈】

　　已涼…すでに涼しさの訪れた好時節。

　　繍簾…刺繍で飾られた。

　　猩色…濃い紅色。猩は(想像上の獣)

　　折枝…手折った一枝の花。又それを画く画法。

　　八尺…唐代の一尺は三一.一センチメートル。八尺は約二．五メートル。

　　龍鬚…竜鬚で編んだ敷きもの。　竜鬚は植物の名「りゅうのひげ」

　　方錦…四角形の錦織り。

　　褥　…しとね。敷物。座る時や寝る時に下に敷く物。

　　未寒…まだ寒くない時節。

【押韻】　平声、支韻。垂、枝、時、

【解説】

(八四四―九二三)は晩唐の人。龍紀元年(八八九)進士及第。栄進して中書舎人・兵部侍郎となり昭宗の信任厚かったが、時の権力者朱全忠(後に帝位を簒奪した)に従わなかったために地方に貶された。後再び召されたが入朝せず、(福建省)の王審知を賴って赴きそこで没した。

詩人として気概に富む詩を作る一方で艶冶詩に巧でそれを収めた「集」を残した。

この詩は爽やかな秋の昼さがり、麗人の午睡の様を詠じたものとされる艶冶詩であるが、詩中に全く人物を登場させずやかな欄干・簾・屏風・褥等を詠ずることにより却ってそれを美しく連想させるという手法を用いた珍しい一品です。

以上